

経営比較分析表

埼玉県 毛呂山町

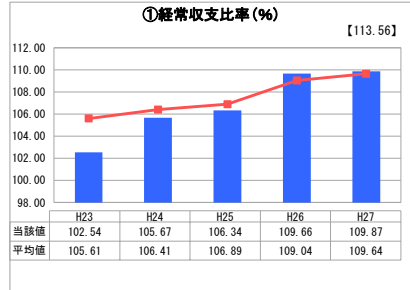
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	80.65	99.69	2,127

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,977	34.07	1,026.62
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,757	24.20	1,436.24

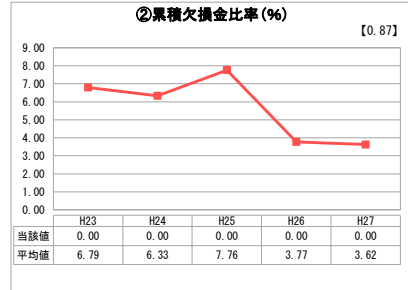
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

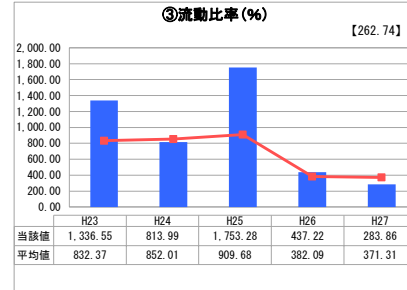
1. 経営の健全性・効率性



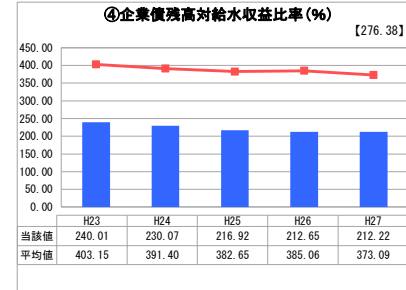
「経常損益」



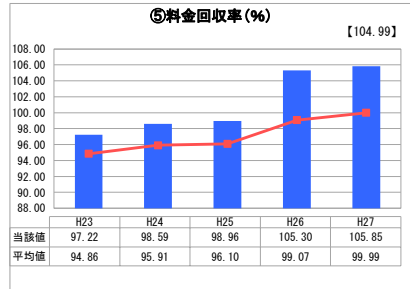
「累積欠損」



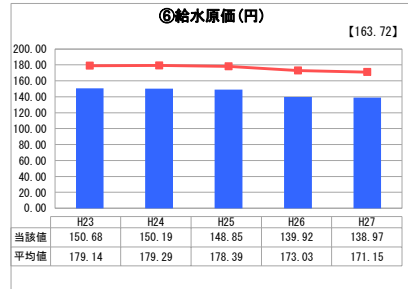
「支払能力」



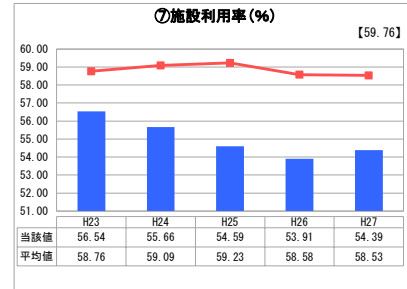
「債務残高」



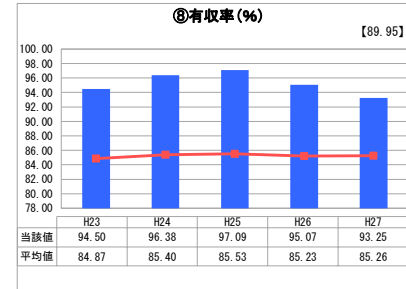
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

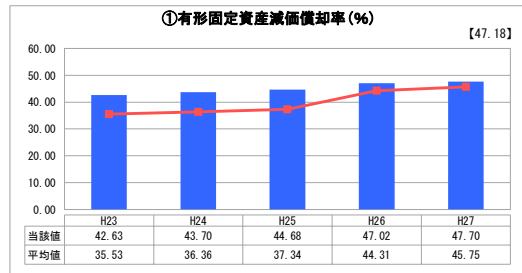


「施設の効率性」

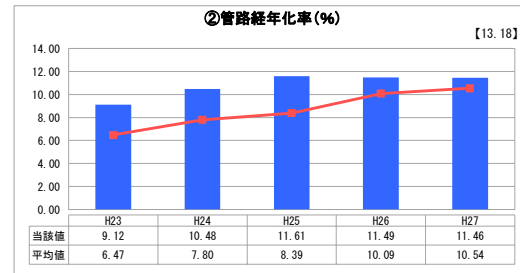


「供給した配水量の効率性」

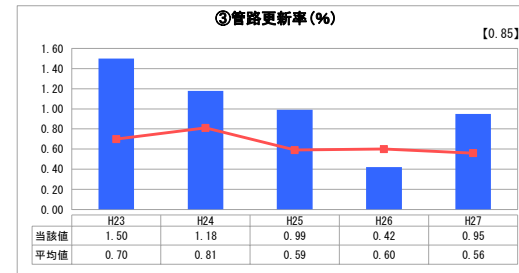
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
指標値は100%を超えており、概ね平均値となっている。これは、単年度収支では黒字であることを示している。
- ② 累積欠損金比率
累積欠損金が発生していないため、0%である。
- ③ 流動比率
短期的な支払能力を示すもので、平成27年度は平均値を下回ったが100%を超えており問題はない。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
平均値を下回りほぼ同水準を示しており、企業債残高の規模は適正に保たれている。
- ⑤ 料金回収率
平成26年度より会計制度の変更で100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄われていることを示している。
- ⑥ 給水原価
有収水量1m³あたりにかかる費用を示すもので、年々費用が減少している傾向にある。
- ⑦ 施設利用率
一日配水能力に対する一日配水量の割合を示す指標だが、平均値を下回っている。これは給水人口の減少、節水意識の高揚などにより配水量が減少しているためである。
- ⑧ 有収率
平均値を上回っているが、下落傾向にあるため、水道施設の点検等を実施し水準維持に努めることが必要である。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
概ね平均値であるが、年々上昇しており施設等の老朽化が進んでいることを示している。
 - ② 管路経年化率
管路の老朽化を示す指標で、ほぼ平均値となっている。
 - ③ 管路更新率
年度によってばらつきがみられるが、今後も計画的に管路更新を実施する必要がある。
- ①から③の指標をあわせて分析すると、水道施設の老朽化はますます進むため財源確保の方策を早急に検討し、投資計画に沿った施設の更新を実施すべきである。

全体総括

今後も、経常収支比率が100%を下回ることのないよう健全な経営に努める。
また、平成29年度に将来にわたって安定的に水道事業を継続していくための中長期的な基本計画である「経営戦略」（「投資・財政計画」を含む）を策定する予定である。「投資・財政計画」において収支ギャップが生じることが予想されるが、その場合は水道料金の引き上げや水道施設のダウンサイジング等の検討を行い、収支均衡を図ることが必要である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。